



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# グーグル .com

5

## —天才たちの『検索と広告』イノベーション—

### 上場以来、初の減収となるか

10

2020年初頭の新型コロナウイルスによるパンデミックの影響は、グーグルの持ち株会社アルファベットにも及んだ。同社は、2020年1～3月期の売上高が411億5,900万ドル（約4兆4,000億円、前年同期比13%増）、純利益が68億3,600万ドル（約7,300億円、同3%増）になったと発表した。これらの伸び率は18四半期ぶりの低さだった。

ネット広告市場は成長を続け、アルファベットも増収記録を伸ばしてきた。同社のスティーブ・ピチャイ CEO は、主力のインターネット広告について旅行や外食といった分野の広告が急減し、「3月に入って突然大きく落ち込み、前年比10%台半ばの減少率になった」と語り、4～6月期はさらに減るとの見方を示した。

15

もし四半期で減収となれば株式上場以来初めてとなるはずだが、検索などサービスの利用は依然伸びている。主力のネット検索では、例えばウイルス関連で利用は急増した。しかしこうした利用は、収益の柱である検索連動型広告と結びつきにくい。検索連動型は売上高の6割以下にとどまる一方で、動画共有サイト「ユーチューブ」の1～3月期広告売上は33%増となり、広告全体の伸び率10%を上回った。

20

またクラウド・コンピューティングによる企業向け情報サービスは、アマゾンやマイクロソフトなどとの競争が激しいが、1～3月売上高は前年同期比52%増の27億7,700万ドル（約3,000億円）と高い成長率を保った<sup>[1]</sup>。

25

こんな状況下でアルファベットの株価は大きく上昇し、株式時価総額は1兆ドル（世界5位）に近

<sup>[1]</sup> 日本経済新聞 2020年4月30日、および同年5月9日より。

このケースは山根 節（慶應義塾大学名誉教授/ビジネス・ブレイクスルー大学院教授）と牟田陽子（早稲田大学ビジネススクール MBA）が、慶應義塾大学ビジネススクール（KBS）小林喜一郎教授の協力を得て、クラス討議の資料として作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

30

Copyright © 山根 節、牟田陽子（2020年6月作成）